新聞記事データベースの活用法

宮薗　育子

＜抄　録＞

新聞記事データベースは小論文指導だけでなく，個に応じた教材作りに役立つ。校内LANとWi-Fiによって，従来の図書館に加えて，情報端末機器と，生徒を受容し課題解決へのアドバイスができる指導者のいる場所が，図書館の役割を担いつつある。学校図書館の機能の一端を担う進路指導室では，情報の収集・活用の仕方を学ばせることもできる。新聞記事データベースを使って生徒が積極的に進路指導室に足を運ぶ姿が見られるようになったことと，個に応じた教科指導の効率化について紹介したい。

＜キーワード＞

学校図書館，NIE，データベース，小論文指導，進路指導，日本語教育

1　はじめに

柏市立柏高等学校は，生徒数約950名の全日制普通科高校である。部活動が盛んで，文武両道をモットーとし，毎年全国大会に出場する吹奏楽部や運動部員が，夜遅くまで練習する姿が見られる。また，国際教養クラスを設置し，日本語を母語としない生徒も数名受け入れている。

進路では半数の生徒が大学・短大に進学し，そのうち９割の生徒が，AO・推薦入試で受験している。その対策として，進路指導部が主導して，小論文指導に新聞記事データベース「朝日けんさくくん」を導入することとした。校内LANとWi-Fiの環境が整備されているので，図書室やPC室だけでなく，各教室と進路指導室（閲覧室）でも，PCやタブレット端末を通して情報検索ができるようになった。導入後，小論文指導以外にも，多様な生徒に対応する教材作りに活用できることがわかった。職員の教材作成の効率化にもつながった「朝日けんさくくん」の本校での活用事例を紹介する。

2　データベースの活用

2-1　小論文指導での活用

（1）情報の収集

本校では入試対策として，国語科を中心に小論文指導を行っている。選択の授業で国語表現を置くだけでなく，個別に求める生徒にその都度指導している。

推薦入試では社会的な課題を，受験生がどのように考えるかを問う。指導上の問題点は，生徒がニュースを見ることも少なく関心がないため，テーマ自体が理解できていないことだ。まずは課題となっている事柄について調べるところから，新聞データベースを活用している。

次にそのテーマをめぐる意見を，特集記事を読ませることで，何が問題なのか，テーマについての是非を主体的に考えさせる。この時点でディベートの手法を用いることもある。

「朝日けんさくくん」はテーマ（「キーワード検索」）で検索できたり，特集記事のタイトル，例えば三者の主張を掲載する「耕論」などで探したりできるので，知りたい情報にすぐにたどり着ける。

データベース導入前は，職員の自宅で読み終わった古新聞を２紙，生徒が閲覧できるようにしておき，必要ならばはさみで切り抜くことも推奨していた。全体の紙面から，見出しを手掛かりに見つけるのは，必要とするもの以外の情報と出会う意味もあり，興味関心を広げるのには効果があった。

しかしテーマを調べるのに，何日分もの紙面を広げて探すのは時間がかかり，その段階で飽きてしまうこともあった。また当然のことながら切り抜かれた新聞は情報がとびとびになって使えなくなってしまうし，散乱する状況だった。

写真１　進路指導室の新聞切り抜きコーナー

「朝日けんさくくん」を導入するにあたって，進路指導室では，生徒が自由に記事をプリントアウトできるようにした。生徒は授業の予習をするために，進路指導室でこまめに検索するようになった。

MIYAZONO，Ikuko：柏市立柏高等学校（千葉県柏市船戸山高野 325 番地-1）

（2）図表の読解

最近の入試問題には図表を読み取らせ，そこから課題と意見を求める出題が多くなってきた。新聞にはデータや図表がわかりやすく掲載されているので，切り取って印刷し，教材化することが多々あった。

しかし新聞からコピーして印刷すると，画像が荒くなり，画像の濃度を何度も調整しながらプリントを作っていた。新聞データベースは，新聞の本文だけでなく，図表も鮮明にプリントアウトすることができる。またパワーポイントに直接データを貼り付けて教室で見せることも可能になった。

小論文の指導は，授業では一般的な内容で書かせ，さらに望む生徒には希望する進路先に応じて，教員が個々の生徒のために課題となりそうな題材を探し書かせている。データベースを活用することで，題材と図表の選定にかける時間は，大いに短縮された。

2-2　外国語科での活用

国際教養クラスには英語検定準１級を取得するような生徒もいるので，教科書レベルにとどまらず，多くの英語表現に触れさせ，自分の意見を英語で述べさせる指導も行っている。

「朝日けんさくくん」の中には，「和英対照社説」があるので，英語の時間に時事英語の表現に即時に触れさせることができるようになった。今までは教員が英字新聞やインターネット等で探した文章をコピーしたり，入力したりしてプリントにしていた。日本の新聞社の発行する記事なので，情報に信頼性があるのと，わかりやすい英文の表現を用いているので安心して教材化できる。

ニュースで取り上げられるような話題を，すぐに英語表現で生徒に触れさせられるのは，時事問題に興味を持たせる上でも，留学等を見据えた進路選択をする生徒に世界を意識させる上でも効果的である。

写真２　PC で新聞記事検索

2-3　日本語の教材に活用

本校には日本語を母語としない生徒が，各学年に数名在籍している。国語の時間にはその生徒たちを別の教室に移動させ，各々の日本語能力に応じた日本語学習をしている。「新聞が読めるようになりたい」と希望する生徒が多かったので，天声人語等の短い記事を切り抜いて，ルビを振り，語彙を広げる学習をしていた。しかし漢字の読み書きがままならない生徒もいれば，読みさえ教えればおおよその意味をつかめるような漢字文化圏の生徒もいる。このような習熟度にばらつきのある生徒への教材作りには手間と時間がかかっていた。

しかし「朝日けんさくくん」が導入されてから，本文をテキストとしてコピーすることができるようになったので，記事をそのまま印刷することもなくなった。また記事を入力せずに，テキストで取り出した本文をワープロソフト「一太郎」に貼り付け，ふりがなを振っている。一太郎にはふりがなを学年別に選ぶことができる機能がついており，一度ふった語句にはふりがなをふらないこともできる。

天声人語１日分を１時間で読んで語句を学び，感想を述べ合うといった授業を取り入れたところ，話題性のある時事問題に興味がわき，主体的に授業に取り組むようになった。

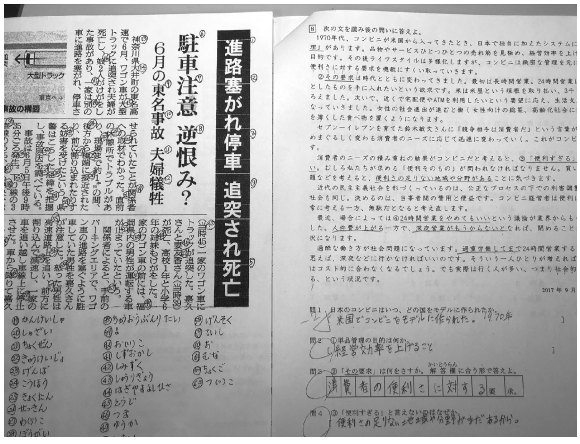

写真３　記事をコピーした教材（左）とテキストで作成した教材（右）

3　おわりに

学校全体で１紙新聞を取るより，多くの職員や生徒が，インターネットを通じて情報に触れることができる新聞記事データベースの導入は画期的であった。特にインターネットで情報の信頼性が不明確な情報検索をするよりも，信頼度が高く，より多くの文章を読まなければならない新聞記事データベースは，長文に慣れることと，読解力の向上にも役立つ。

今後は新学習指導要領でも求められている，探求型の学習を，進路学習を軸に，総合的な探求の時間で活用することを検討していくこととなる。そういった流れの中で，新聞記事データベースは活用度の高い情報源である。